

1年生が大切にされる学校に



隣の祐子ちゃんが4月から小学生になるため、お父さんと通学路を歩く練習で出掛けるときのことです。「祐子ちゃん、いよいよ小学生だね。学校は友だちもたくさんできるよ。楽しい本も読めるようになり、勉強もできるようになるよ。先生の話をよく聞くと勉強ができるようになるんだって」。笑顔の祐子ちゃんと話しました。

新1年生の祐子ちゃんが入学式に登校するときのことです。「おめでとう！行ってらっしゃい！」と祝福の声をかけると、「行きます！」と明るい笑顔で返してくれ、お母さんと一緒に学校へ行きました。新しいうすい紫色のランドセルの後ろ姿が新鮮で希望に満ちていました。1週間して会った時に「学校は楽しい？」と聞くと、「楽しいよ！」と明るい声が返ってきました。

家庭では、子どもが学校で嫌なことや悩みができたときにも、家で話ができると思える環境を作っておくことが必要です。そのためにも、日頃から明るい親子のコミュニケーションを大切にしたいものです。地域の人も子どもに会ったときには、温かい声掛けができればと思います。明るく元気な子どもの声が聞こえてくる社会であってほしいと願います。

かつて、学校において、「1年生は、やがて6年生のように、高い世界・広い世界が見えるようになります。そのために、勉強したり遊んだりするのが学校です。学校みんなが、1年生の目の高さで見たり考えたりして、1番小さい1年生が大切にされる学校にしましょう」と、話しました。

1年生の保護者からは、「しつけも教育もまずは家庭環境からだと思いますが、初めて小学校に通わせる親としては学校教育での先生の協力がとても必要です。我が子もまだまだ緊張と不安との毎日ですが、今、子どもに望むことは元気に学校に行き、楽しかったと帰ってくることです。そして、子どもの心が和める学校であってほしいと願っています」という言葉をいただき、1年生が大切にされる学校づくりの大切さを再認識しました。

